

令和7年第3回北海道議会定例会 予算特別委員会（保健福祉部所管） 開催状況

開催年月日 令和7年9月26日（金）

質問者 日本共産党 真下 紀子 委員

答弁者 福祉局長 森 みどり

介護運営担当課長 樋口 知己

看護政策担当課長 今澤 輝隆

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 介護人材確保等について</p> <p>（一）介護福祉科における介護福祉士養成の役割について</p> <p>介護人材確保等についてです。高齢化の進行に伴い、介護人材の需要が高まる一方、介護人材不足も顕著となってきました。北海道には、これまで500人以上の介護福祉士を輩出してきた置戸高校があります。介護人材の確保に取り組む保健福祉部は、置戸高校での介護福祉士養成が、道内の介護人材確保に果たしている現状と役割をどう受け止めているのか伺います。</p> <p>（二）介護福祉科の生徒募集に対する連携・協力について</p> <p>道も高く評価をしており全国的にも有名だと聞いております。ところがですね、近年入学者の減少が続きまして、2024年度は定員40名のところ9名にとどまったため、置戸町と道教委は募集に尽力し、今年度は14名の入学となりました。生徒募集に関して保健福祉部は、連携・協力をどのように行ってきたのか伺います。</p> <p>（三）生徒への支援について</p> <p>道の助成は大きいとはいえません。置戸町は制服、教材、ICT端末、それから寮費等に補助を出して、教育庁と連携しながら生徒を確保できるよう全国募集をかけるなど努力しております。介護職の養成に責任ある保健福祉部として、介護福祉科の生徒に対してどのように支援してきましたか。</p> <p>一人当たり計算してみたんですよね。そしたら、今年度2万円も減って、16.4万円、それも貸付なんですよね。そして、3年働いて免除されるという割には、この金額はあまりに少ないと思いますので、是正を求めておきます。</p> <p>（四）生徒の成長への支援について</p> <p>お聞きしたところ、置戸高校の入学者は管外からの入学が多く、介護職を希望する生徒のほか、中学生の時、人間関係に悩んでなかなか登校できず、学力も十分つかないような、そういう状態の生徒たちが、少人数指導の下で成長して、介護福祉士試験合格率100%、希望する管内・道内に就職100%で巣立っているという状況です。道立高看は、私は学ぶことが多いのではないかと考えるんですけど、いかがでしょうか。</p>	<p>【介護運営担当課長】</p> <p>置戸高校についてでございますが、道立高校唯一の福祉科単置校である同校は、介護福祉士国家試験の受験資格に必要な学科や実習の履修が可能で、卒業時に受験資格を得ることができ、また、これまで全国平均を上回る高い合格率を維持するとともに、卒業生の多くが道内の介護分野に就職していることから、本道の介護人材の確保に大きな役割を果たしているものと考えております。</p> <p>【介護運営担当課長】</p> <p>生徒募集における連携などについてでございますが、道では、介護の普及啓発イベントにおいて、学校の生徒募集のパンフレットを配架するとともに、道のホームページで置戸高校の取組を紹介しているほか、置戸高等学校支援対策協議会が行っている中学校訪問やオンラインでの学校説明会、体験入学会の開催などの学生募集活動に対し助成を行っているところでございます。</p> <p>【介護運営担当課長】</p> <p>福祉系高校に在学する学生への支援についてでございますが、道では、福祉系高校に在学する方に対して、実習着など修学に必要な物品の購入や介護実習に係る費用、国家試験受験費用などに対して貸付を行う福祉系高校修学資金貸付事業を実施しており、この貸付金は、卒業後に介護福祉士として道内で3年間介護等業務に従事した場合は、全額返還免除となるものでございます。</p> <p>置戸高校の生徒に対する貸付実績は、令和5年度は、11名で146万円、令和6年度は、7名で129万円、令和7年度は、7名で115万円となっているところでございます。</p> <p>【看護政策担当課長】</p> <p>学生に対するサポートについてでございますが、道立高看では、近年、学生数が定員を下回る状況が続いており、演習などのグループワークでは、多くの考え方や意見を聞いたり、ディスカッションする機会が少ないといった状況が生じている一方で、授業では、学生一人ひとりの状況に応じた効果的な指導や、きめ細かな学習のサポートが可能となっているといった面もあるところでございます。</p> <p>道としては、引き続き、効果的な教育方法を検討しつつ、オープンキャンパスやweb説明会の開催などを通じ、看護職員を目指す学生の確保に努めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>まああの、そう同じ答弁を繰り返さずに学びあったらいいと思いますよ。教育によって若者は大きく成長するわけですから。</p> <p>（五）介護職の処遇改善及び生徒募集の今後の取組について</p> <p>置戸町を中心にここでは、支援対策協議会を作って支援をしております、学力や生活、悩みに対しては教職員などの教育の力で生徒が大きく成長しています。高校進学は普通科志向が強いこともあって入学者の減少要因のひとつとなっていると伺いました。生徒数が一桁が2年連続となると募集停止も検討され始めるということになり、厳しい状況です。しかし今後も高齢者は増加し、介護人材の確保が求められるわけです。介護も看護同様ですね、その専門性によって人間の生きる力、治癒力を引き出す専門職があります。しかし、その処遇には、大きな、賃金が安いなど課題があります。保健福祉部として、これまで以上に介護職の処遇改善に取り組むとともに、置戸高校の魅力ある取組を広く伝え、定員40人をいっぱいにして、介護職で自立していく社会人の輩出に力を尽くすべきではないかと考えますけれども、今後の取組についての見解を伺います。</p> <p>介護職も看護職も人間が生きていくうえで欠かせない仕事です。介護職場もずいぶん様変わりをしていることを私も知りました。ぜひ、介護職に就く方達を育てていただきたいと思います。</p>	<p>【福祉局長】</p> <p>介護人材の確保についてでございますが、全国を上回るスピードで高齢化が進行し、広域分散で介護サービス基盤が偏在する本道では、地域の実情に応じたサービス提供体制の確保が重要であり、とりわけ人材の確保は重要かつ喫緊の課題でございます。</p> <p>このため、道では、国に対して、介護職員等の資格や経験、業務量に見合った適切な給与水準が確保できる介護報酬を設定するよう、全国知事会とも連携して要望しているところでございます。</p> <p>また、介護の普及啓発イベントにおける学校パンフレットの配布や置戸高等学校支援対策協議会が行う学生募集活動に対する助成のほか、次の世代を担う若者に対する介護の魅力や介護ロボット・福祉用具の機能の向上などによる職場環境改善の発信、教育部局と連携した介護の理解促進のための授業に対する講師派遣など、引き続き、こうした取組を着実に推進し、介護人材の確保に取り組んでまいります。</p>